

## 新しい復興のための神・人の生活

聖書：レビ 1:3, 9. 6:8-13. ヨハネ 21:15-17.

I ヨハネ 3:14, 5:1. 2:6. 4:17. ガラテヤ 6:2-3. ローマ 8:2

- I. 神の心の願いは、「イエスにあるあの実際」（エペソ 4:21）、すなわち四福音書に記録されているイエスの神・人の生活の実際の状態が、キリストのからだの多くの肢体の中で、実際の霊によって複製されて、キリストのからだの実際、すなわち、神のエコノミーの最高峰となって、新しい復興を持つことです（20-24 節）：
- A. 四福音書は、神が願っている生活の模範、すなわち神を満足させ、神の定められた御旨を成就することができる生活の鋳型を見せています。イエスは、神の中で、神と共に、神のためにすべての事を行なう生活をしました。神はイエスの生活の中におられ、イエスは神と一でした。これが「イエスにあるあの実際」が意味することです。イエスにあるあの実際にしたがってキリストを学ぶとは、キリストの模範の中へと鋳込まれること、すなわち、キリストのかたちに同形化されることです——ローマ 8:28-29. エペソ 4:20-21。
- B. わたしたちが主によって成就されつつあるのは、神・人たちとなって、第一の神・人であるキリストの原型にしたがって、わたしたちの天然の命を否むことによって、神聖な命を生きるためです——マタイ 11:29 前半. 17:5 後半. I ペテロ 2:21：
1. 彼は彼の地上の生活の中で、四福音書で啓示されているように、一つの模範を設立しました。次に彼は十字架につけられ復活して、命を与える霊と成りました。それは彼がわたしたちの中へと入って、わたしたちの命となるためでした。わたしたちは彼の模範にしたがって彼から学びます。それはわたしたちの天然の命によってではなく、復活におけるわたしたちの命としての彼によってです——I コリント 15:45 後半. コロサイ 3:4。
  2. わたしたちのクリスチャン生活は、キリストの中にある生活であり、またわたしたちの中のキリストの生活です。わたしたちは鋳型としてのキリストの中におり、彼はわたしたちの命としてわたしたちの中におられます。このようにして、わたしたちはイエスにあるあの実際にしたがって、キリストを学びます。この実際が、キリストのからだの実際です——I コリント 1:30. II コリント 5:17. 12:2 前半. コロサイ 1:27. ガラテヤ 2:20. ローマ 8:10。
- C. わたしたちは主を愛し、主と接触し、主に祈るとき、福音書で記述されている鋳型、形、模範にしたがって、自動的に彼を生きます。このようにして、わたしたちはこの鋳型のかたちに形成され、同形化されます。これがキリストを学ぶことの意味するものです——マタイ 11:29. ローマ 8:29。

D. わたしたちはミングリングされた霊の中で生きるとき、実際の霊によって、イエスにあるあの実際にしたがって、キリストを学んでいます。わたしたちは、わたしたちの模範としての彼から学びます。それは、彼の伝記がわたしたちの歴史となるためです。新しい人としてのキリストのからだの生活は、福音書において啓示されているイエスの生活と全く同じであるべきです——ガラテヤ 6:17-18. ローマ 1:1, 9. エペソ 4:20-24. ピリピ 2:5. マタイ 11:29. I ペテロ 2:21。

E. 神が主イエスを遣わして人と成らせた目的は、主イエスが神聖な命によって神・人の生活をするためでした。わたしたちは彼を食べるとき、彼のゆえに生きて、彼と全く同じである宇宙的な大いなる人、すなわち、神聖な命によって神・人の生活をする人となります——哀 3:22-24, 55-56. 啓 2:4, 7. ヨハネ 6:57, 63. エレミヤ 15:16. エペソ 6:17-18. 詩 119:15。

**II. 神を喜ばせる唯一の生活は、キリストが地上で生きた生活を繰り返す生活です。これは、全焼のささげ物としてのキリストの経験の中でキリストを経験する生活です——レビ 1:9. ヨハネ 8:29. II コリント 5:9 :**

A. 全焼のささげ物は、絶対に神のためであり、また神の満足のための生活をするキリストを予表します。全焼のささげ物はまた、神の民にそのような生活をさせることを可能にする命であるキリストを予表します——レビ 1:3. 民 28:2-3. ヨハネ 5:30. 6:38. 8:29. ヘブル 10:5-10。

B. 「全焼のささげ物」と訳された言葉は、昇っていくものを示します。この昇っていくことはキリストを指しています（レビ 1:3, 10, 14）。地から神に昇っていくことができる唯一のものは、キリストが生きた生活です。なぜなら彼は、神のために絶対的である生活をした唯一の方であるからです（ヨハネ 6:38）。

C. 全焼のささげ物は、「エホバを満足させるかおり」でした（レビ 1:9）。「満足させるかおり」と訳されたヘブル語は、文字どおりには、「安息や満足の香り」を意味します。満足させるかおりは、満足、平安、安息をもたらす香りです。そのような満足させるかおりは、神にとって享受です。

D. わたしたちの内側のキリストの命は、全焼のささげ物の実際です。これは従順の命、服従の命、命の木の原則にしたがって神に完全に依存する命です——ピリピ 2:8. ヨハネ 5:19, 30. ヘブル 5:8. 10:7。

1. 人が単独で、独立して、神から離れて、神の外側で行動することは罪です。神は、わたしたちがあらゆることでご自身の指示にしたがって行動することを願っています——詩 40:7-8. I ヨハネ 3:4。

2. 「だれでも小さい子供のように神の王国を受け入れない者は、決してその中に入ることはない」（ルカ 18:17）。神は、わたしたちがいつも小さい子供のようになることを願っています。なぜなら、神は、わたしたちがいつも彼に依存

することを願っているからです。自信は神に依存することの敵です。

- E. 正しい祈りを通してわたしたちの全焼のささげ物としてのキリストの上に手を置くことによって、わたしたちは彼に結合され、彼とわたしたちは一になります。キリストがわたしたちの中で生きる時、彼は彼が地上で生きた生活、すなわち全焼のささげ物の生活を、わたしたちの中で繰り返します——レビ 1:4. I コリント 6:17. ガラテヤ 2:20。
- F. そのような結合、そのような一体化の中で、わたしたちの弱さ、欠点、落ち度はすべて、彼によって担われます——II コリント 5:21. ガラテヤ 2:20 前半。
- G. わたしたちは主にわたしたちを燃やしていただかなければなりません。それは、わたしたちが常にささげる全焼のささげ物となって他の人を燃やすためであり、また減少させられて灰となり、新エルサレムとなって、神を表現するためです——詩 20:3. レビ 1:16. 6:8-13. I コリント 3:12 前半. 啓 3:12. 21:2, 10-11, 18-21 :
1. 灰は、減少させられて無となったキリストを表徴します。わたしたちは、減少させられて灰となったキリストと一であるので、わたしたちも減少させられて灰となります。すなわち、減少させられて無となり、ゼロとなります——マルコ 9:12. イザヤ 53:3. I コリント 1:28. II コリント 12:11。
  2. わたしたちはキリストと彼の死の中で一体化されればされるほど、自分が灰の堆積となっていることをますます認識するでしょう。わたしたちは灰となる時、もはや天然の人ではありません。そうではなく、わたしたちは、十字架につけられ、終結させられ、焼かれた人です——ガラテヤ 2:20 前半。
- H. 灰を祭壇の東側、日の出の方向に置くことは、復活を暗示しています——レビ 1:16. ヨハネ 11:25. ピリピ 3:10-11. II コリント 1:9 :
1. 全焼のささげ物としてのキリストにとって、灰は終わりではなく、始まりです。灰は、キリストが死に渡されたことを意味します。しかし、東は復活を表徴します——マルコ 9:31。
  2. わたしたちはキリストの中で減少させられて灰になればなるほど、ますます東側へと置かれます。わたしたちは東側において、太陽が昇ることと、わたしたちが復活の日の出を経験することを確信します——ピリピ 3:10-11。
- I. 最終的に、この灰は新エルサレムとなります——啓 3:12. 21:2, 10-11 :
1. キリストの死は、わたしたちを終わりへともたらし、わたしたちを減少させて灰とならせます。復活の中でこの灰は、神の建造のための尊い材料となります——I コリント 3:9 後半, 12 前半。
  2. わたしたちは減少させられて灰となる時、三一の神の造り変えの中へともたらしられて、新エルサレムを建造するための尊い材料となります——ローマ 12:1-2. II コリント 3:18. 啓 21:18-21。

Ⅲ. 神の新約の務めを遂行することにおいて、全焼のささげ物の実際としての主イエスは、自分からは何も行なわず（ヨハネ 5:19）、自分の働きを行なわず（4:34. 17:4）、自分の言葉を語らず（14:10, 24）、自分の意志によって何も行なわず（5:30）、自分の栄光を求めませんでした（7:18）。彼は決して失望しませんでした。なぜなら、彼はただ神だけに満足していたからです（イザヤ 42:4. 50:4-5. 53:2 前半. 参照、ヨハネ 4:13-14. 6:15. マルコ 9:7-8）：

- A. 主の生活は彼の働き、彼の行動、彼の務めでした。彼の働きは彼の生活であり、彼の行動は彼の存在でした。彼にとって、彼の生活、彼の働き、彼の行動、彼の務めの間には何の違いもありませんでした。主イエスは彼の務めを生きました——参照、ルカ 22:26-27. ヨハネ 10:10 後半. I コリント 15:45 後半. I ヨハネ 5:16 前半. II コリント 3:6. ペリピ 1:25。
- B. 主イエスは祈りの人でした。彼は、しばしば山へ行ったり、ひそかな場所に退いたりして、祈りました——マタイ 14:23. マルコ 1:35. ルカ 5:16. 6:12. 9:28。
- C. 彼は五千人を養う奇跡の後、弟子たちを強いて彼から去らせました。それは彼が御父にひそかに祈るさらに多くの時間を持つためでした——マタイ 14:22-23：
  - 1. 天の王は、御父の愛する御子として（3:17）、人の立場に立ち（4:4）、天におられる彼の御父にひそかに祈る必要がありました。それは、彼が御父と一になり、彼が天の王国の設立のために地上で行なわれるどんな事においても、御父と共にいるためでした。
  - 2. 彼がこれを行なったのは、荒野ではなく、山の上であり、すべての人から、さらには彼の弟子たちから離れて、ただ一人、御父と接触しました。
- D. 彼は祈りの人であり、神と一であったので、決して独りではありませんでした。なぜなら、御父が彼と共におられたからです。あらゆる瞬間、彼は御父の御顔を見ていました——ヨハネ 5:19. 16:32. 詩 16:7-8. 参照、27:8。

Ⅳ. わたしたちが神ご自身である愛の中に住むとき、愛は「わたしたちの中で全うされました。それは、わたしたちが裁きの日に大胆さを持つためです。なぜなら、彼がそうであるように、わたしたちもこの世でそうであるからです」（I ヨハネ 4:17）。全焼のささげ物の実際としてのキリストはこの世で、愛としての神を生かし出す生活をしました。そして彼が今やわたしたちの命であるのは、わたしたちがこの世で同じ愛を生かし出す生活をして、彼と同じになるためです（3:14. 5:1. 2:6）

- A. わたしたちの霊の中の命の霊の法則は、キリストの律法であり、愛の律法（愛の法則）でもあります（ローマ 8:2. ガラテヤ 6:2）。愛の律法は、命の霊の法則によって実体化されなければなりません。それは、わたしたちが互いに重荷を負い合うことができるためです。しかし、もしわたしたちが高ぶりで満たされているなら、他の人の重荷を負うことができないでしょう。なぜなら、わたした

ちは、自分が何者でもないのに自分をひとかどの者と考えていることによって、自分を欺いているからです（3節）。

- B. 愛の法則がわたしたちの内側で発動するとき、わたしたちは自動的にまた自然に牧する者となって、わたしたちの父なる神の愛し赦す心と、わたしたちの救い主キリストの牧養し捜し求める霊を持ちます——ヨハネ 21:15-17. ルカ 15:3-7。
- C. 愛の法則がわたしたちの内側で発動するとき、主にあるわたしたちの労苦は愛の労苦となります（I コリント 15:58. I テサロニケ 1:3）。わたしたちはその中で「弱い人たちを支え」（使徒 20:35）、「弱い者を支え」ます（I テサロニケ 5:14）。「弱い人たち」は、彼らの霊、魂、体において弱い人たち、あるいは信仰の弱い人たちを指しています（ローマ 14:1. 15:1）。
- D. 主は復活した後、ペテロを牧養して、ペテロに彼の小羊を養い、彼の羊を牧養するよう委託しました。これは、使徒の務めとキリストの天の務めを合併して、神の羊の群れ、すなわち、召会を顧みることです。この事の結果、キリストのからだは建造され、新エルサレムにおいて究極的に完成して、神の永遠のエコノミーを成し遂げます——ヨハネ 21:15-17。